

労働者たちとの記念撮影。前列中央、洋服姿が平沢計七。遺族に残されていた唯一の平沢の写真という＝西田勝さん提供



関東大震災後 亀戸事件で虐殺

平沢計七に学ぶ

江東で26日

関東大震災の直後に、すぐれた労働運動の指導者・平沢計七が虐殺された亀戸事件から90年。集会「平沢計七殉難90周年 記念の午後」が26日、江東区大島8丁目の東大島文化センターで開かれる。34歳で亡くなった平沢の訴えは現代に通ずると、西田勝・平和研究室が主催する。

平沢は、治安維持法の前身の「過激社会運動取締法案」を阻止するため、思想や立場を超えた労働組合の共闘組織をつくり、廃案に追い込んだ。労働者の生活や環境を題材にした戯曲や小説、詩を書き、国家や民族を超えた労働者の友好と連帯の必要性を訴えた。自らが書いた戯曲「非逃

避者」の中で主人公にこう語らせている。

「世界の不幸は自分の不幸だと云うことがはっきりわからぬ限りは、国と国とが争ったり個人と個人とが争ったりする事が、たとえ勝つように見えていても結局は人間の負だとならぬ限りは、人間は絶えず苦しまねばならないのじゃ」

平沢を研究する文芸評論家の西田さんは「地球規模で格差が広がり、安倍政権は「戦争のできる国」にしようとしている。平沢は、労働者が団結して格差社会を克服すべきだと説き、戦争にせよテロにせよ、武力による解決は「人間の負け」と断じた。すべての紛争に対話と交渉で対処すべきだと訴えた平沢の声をこんにちの人々に伝えたい」と話す。

当日は午後1時半から。西田さんのほか、なのはなユニオン創始者の鴨桃代さん、全統一労働組合の鳥井一平さんの話がある。資料代500円。詳しくは平和研究室(047・381・4595)。